

小池 誠 展

MAKOTO KOIKE EXHIBITION

建築と作品たち



賛助出品

竹村 弘/ステンドグラス
片桐 秀夫/木彫

自宅展示棟

入場無料 駐車場5台有

作家住所：〒395-1106 長野県下伊那郡喬木村富田12223-8
TEL: 0265-33-3081

E-mail: mkoike@rose.ocn.ne.jp
<http://www.makoto-koike.com>

2022 4/29(金)～5/22(日)

開館時間: 11:00a.m.～6:00p.m.

会期中無休

会期以外は制作に専念している為展示棟は閉めています。観覧ご希望の方は必ず電話かE-mail等でご予約してからお越し下さい。突然来訪されても対応できませんのでご了承ください。



大いなる全て 宇宙・生命・心を見つめて・求めて

探求と創作と祈りの場

南アルプスと中央アルプスの間の山里・富田で生まれ何不自由なく育った私は、18歳の時に当時不治の病だった骨肉腫になりました。

まさに青天の霹靂でした。

生死の闘病生活の中で「元気に内にこの宇宙や地球の事、生命の事、人間の事、自分の事等を少しでも探求したい」と祈り・願い・求めました。両親を初め周りの多くの方達のお陰で病氣は完治し何とか生き延びることができました。

永い闘病生活の中で生命(いのち)・心の底から生じた願い、そして生まれつき好きだった探求と創作の世界は私の人生そのもの、生命(いのち)そのものになりました。

その後は人生の困難や試練を乗り越える原動力となり、私を支え、導いてくれました。

還暦を迎え両親を見送ったのを機にささやかですが自宅に併設して展示棟を作りました。

建築大好きな私は、展示棟も作品として捉え、構想を練り、下図を描き、地元の工務店に作って頂きました。

全くなプライベートな場所ですが、一度皆様に見て頂き何かを感じて頂ければ嬉しく思いお披露目の機会を作りました。

富田は、江戸時代は天領(幕府直轄の領地)でした。地名のごとく田に富みお米が良く穫れた村でした。盆地形をしていて、西端には城山があり、戦国時代には知久氏が築いた神ノ峰城の出城として富田城が築かれました。

富田城跡からは伊那谷や富田盆地が良く望め、日本の美しい山里の風景が広がります。闘病時代は私の慰めの場になり、どんな心も受け入れ癒やしてくれました。

旧道から宮坂峠を越え富田に入るとその特徴がはっきり望めます。近くには喬木村名所の「くりん草園」があり5月は見頃です。美しい富田を観光しながら気楽にお立ち寄り頂ければ幸いです。



200

910



略歴

- 1957年 長野県下伊那郡喬木村生まれ。
東京で建築の世界を勉強中、18歳の時に骨肉腫になり左足大腿部より切断。20歳で左肺に、28歳で右肺に転移し部分摘出手術をする。永い闘病生活の体験が元でアート、デザイン、エッセイ執筆等を始める。
- 1990年 個展・紀伊国屋画廊、96年にも開催(東京)
- 1991年 第4回ジェック「ま・な・び・す」と大賞(優秀賞受賞、東京)
- 1992年 第3回障害者アートバンク大賞(大賞受賞、東京)
- 1992年 SBC特集「いのちの声」放映(信越放送)
美しき生命(いのち)輝きの美術展(天童市美術館)
くらしのジャーナル特集「いのちの鼓動を伝えたい」放映(NHK総合)
「棕鳩十記念館オープン記念小池誠展」(棕鳩十記念館)
- 1993年 「善行者」として県知事表彰(長野県知事)
- 1999年 「伝言=刻を超える それぞれの表現」(駒ヶ根高原美術館)
- 2007年 第7回国際アビリンピック「ポスター デザイン部門」
日本代表として出場(審査員特別賞受賞、静岡)
「成績優秀技能者」として県知事表彰(長野県知事)
- 2010年 個展・銀座スルガ台画廊(東京)
- 2013年 個展・「小池誠展-生命・いのちをみつめて-」(須玉美術館)
- 2021年 「水をめぐる旅-やまなしの美術館大全」(山梨県立美術館)
両親の10年以上に及ぶ在宅介護生活を無事終え、自宅に併設して展示棟を作る。新たに未来に向け探究と創作活動を始める。

その他公募展、グループ展、個展、版画、陶壁画、本・雑誌の表紙紙制作・使用、エッセイ執筆等多数。

